

食肉（生鮮）

表示ミスの発生原因	段階				ページ	
	企画	準備		製造		出荷
		包材	原材料			
1. 基準の誤認・認識不足						
①認識不足による一部項目の表示漏れ	●				6	
②認識不足による誤表示	●				7	
2. 誤ったデータの使用による誤表示						
①照合作業の不備				●	8	
②データ処理の不備				●	9	
3. 他商品のラベルを使用						
①他商品データの履歴を使用				●	10	
②他商品ラベルとの混同				●	11	
4. チェック体制の不備						
①確認工程をパス			●	●	12	
5. その他作業中のミス						
①材料・商品の混同				●	13	
②伝達ミス			●	●	14	
③その他					●	15

① 認識不足による一部項目の表示漏れ

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
●				

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>牛の個体識別番号を表示せずに販売</p> <p>表示担当者が牛のタン（内臓）とロース（特定牛肉）との焼き肉盛り合わせ商品に対して、特定牛肉であるロースの個体識別番号を表示せずに販売した。</p> <p>→牛トレーサビリティ法に基づき、特定牛肉であるロースの個体識別番号を表示すべきだった。</p>	<p>体制不備 制度理解不足</p> <p>牛トレーサビリティ制度を理解していなかった</p>	<p>食品表示のチェック体制を導入</p> <p>従業員に対し、食品表示制度及び牛トレーサビリティ制度に関する研修を実施</p>	<p>表示作成の時に食品表示基準を確認する体制を作りましょう。</p> <p>従業員のスキルアップをはかりましょう。</p> <p>ヒント</p> <p>チェック体制や仕組み作りについては、「克服しよう！ヒューマンエラーと表示ミス」の「第1部 ヒューマンエラーの仕組み<基礎編>」の特に、「ミスを防ぐチェック方法～読み合わせのススメ～」や「ミスを繰り返さない環境づくり」を参考に体制づくりにチャレンジしてください。</p> <p>また、巻末の参考資料「加工食品の原料原産地表示制度について」や「表示ミスをなくす取組」でご案内の農林水産省のホームページ内の動画を関係者で閲覧、自社取組みとの違いや意見交換をすることでスキルアップの一助とすることが期待できます。</p>

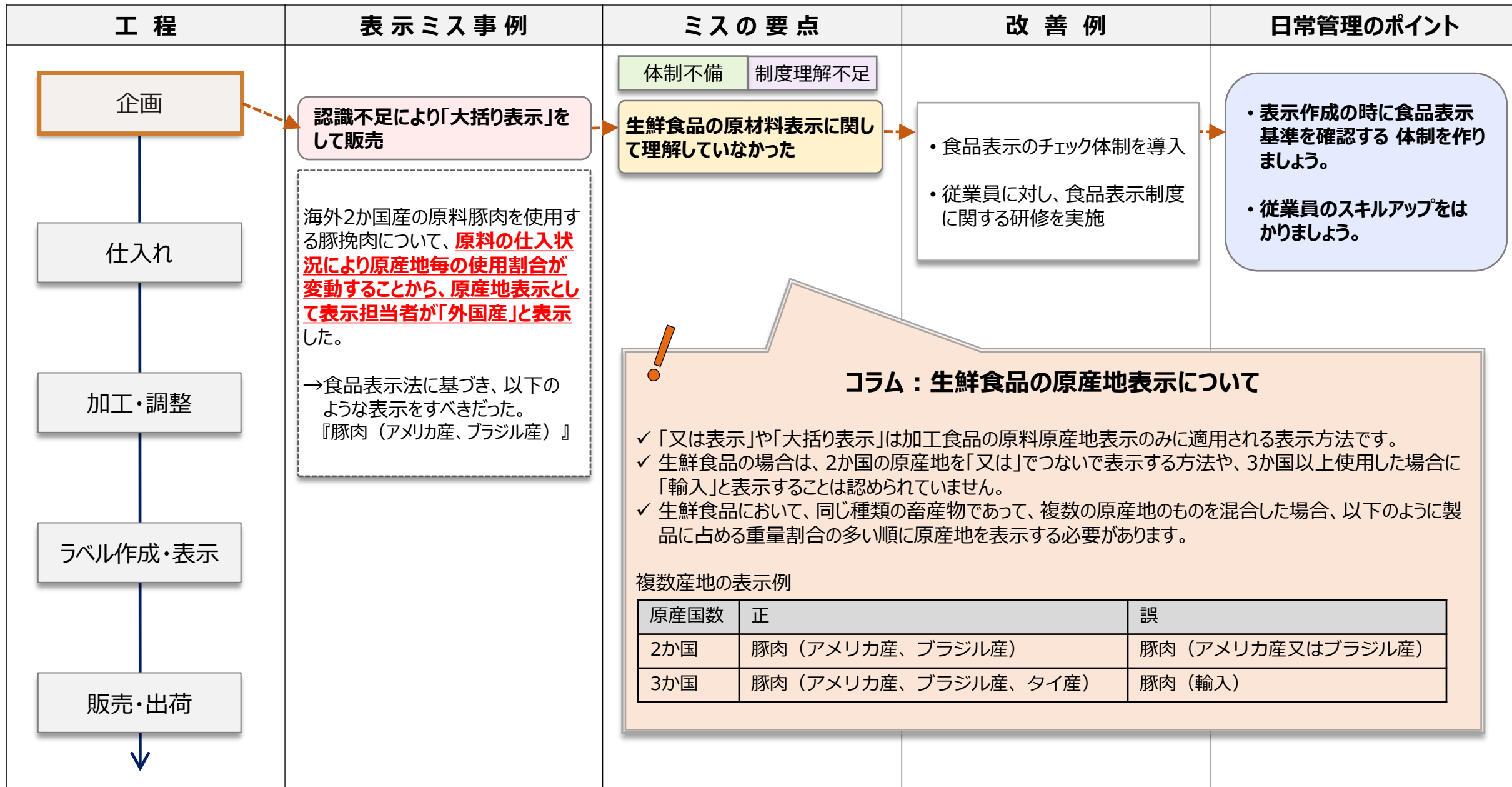
コラム：牛トレーサビリティ制度とは？

- ✓ 牛トレーサビリティ法に基づき、牛を10桁の個体識別番号により一元管理し、生産から流通・消費の各段階において個体識別番号を正確に伝達することにより、消費者に対して個体識別情報を提供する必要があります。
- ✓ そのため、特定牛肉※の販売に係る仕入れと販売の記録を保存しなければなりません。
※特定牛肉とは、牛個体識別台帳に記録された牛から得られた牛肉であって、枝肉・部分肉・精肉が該当します。
- ✓ また、販売する特定牛肉の個体識別番号を表示・伝達しなければなりません。
- ✓ よって、牛のタン（内臓）とロース（特定牛肉）との焼き肉盛り合わせ商品に対しては、特定牛肉であるロースの個体識別番号を表示する必要があります。

【農林水産省：牛のトレーサビリティについて（販売業者向け）】
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/trace/attach/pdf/index-36.pdf>

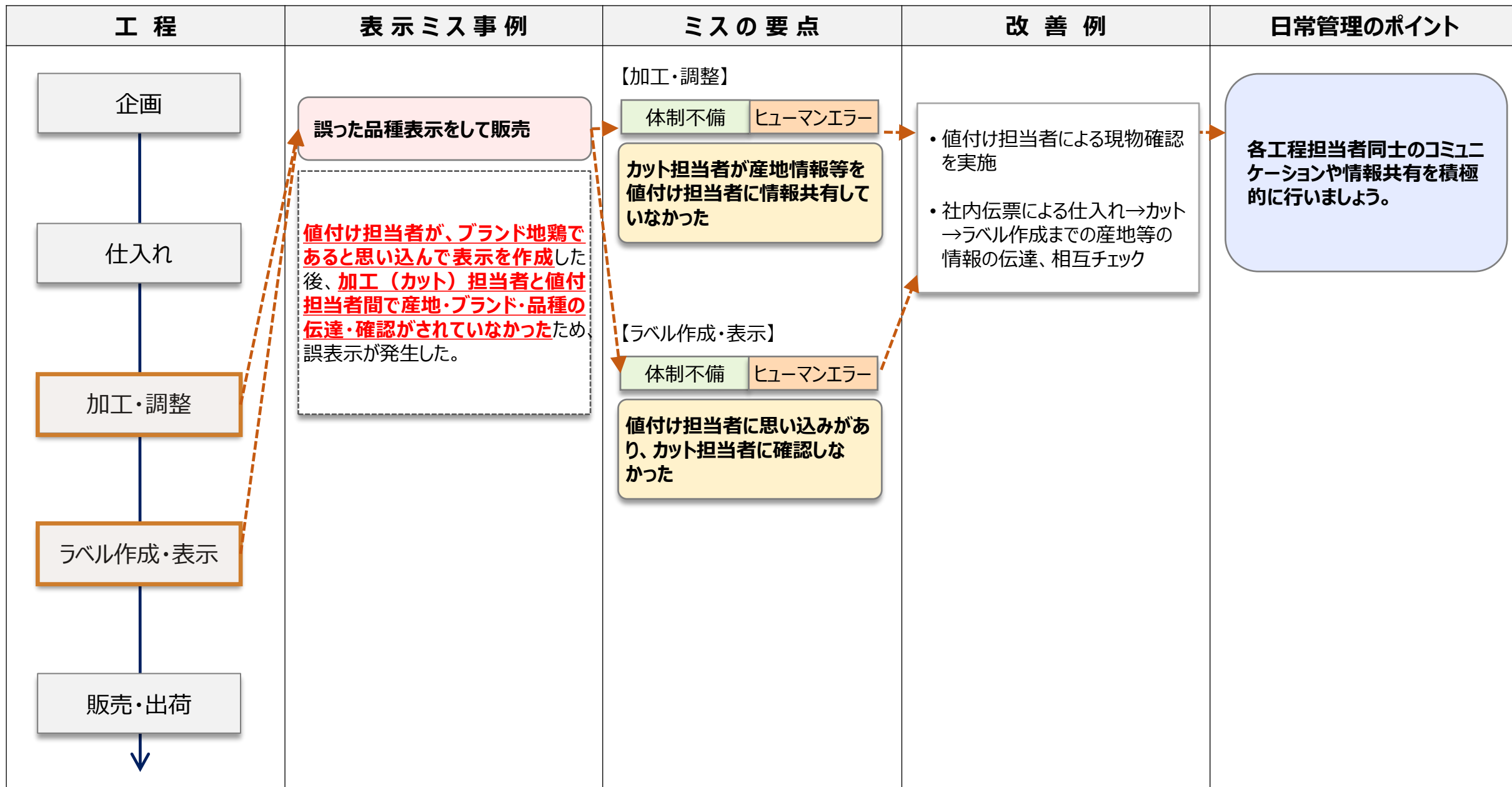
②認識不足による誤表示

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
●				



企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
			●	

①照合作業の不備



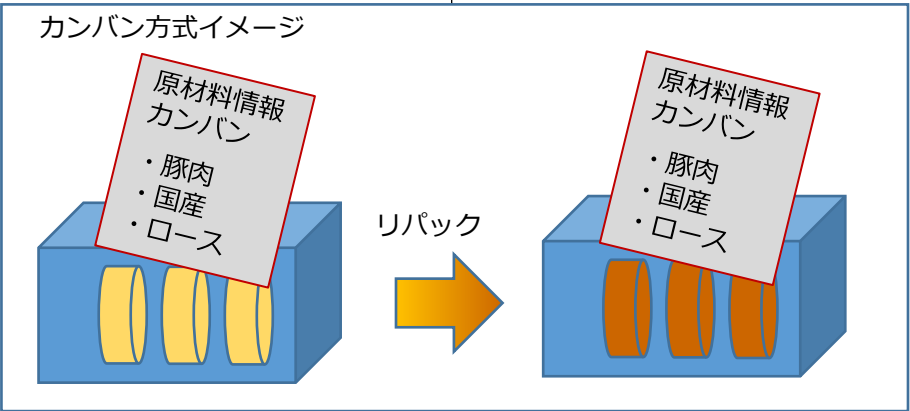
②データ処理の不備

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
			●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>ブロイラーの鶏肉をブランド地鶏として販売</p> <p>ラベル作成者が、ブロイラーの鶏肉のラベル作成時にブランド地鶏の部位のコード番号を誤って入力したため、ブロイラーの鶏肉にブランド地鶏の表示をした。</p>	<p>ヒューマンエラー</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報入力に作業ミスがあった 情報入力後のセルフチェック（見直し）をしていなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 作業手順書を作成し、セルフチェックによる誤入力を予防 部位コードの視認性を改善（ハイフンを入れて2桁づつ入力） 	<p>手元で指差呼称をする等、現物と表示とを突き合わせましょう。</p> <p>ヒント</p> <p>ミスの防止に向けた業務手順の導入によって、「異常検知力」が得られます。「異常検知力」については、「第1部 ヒューマンエラーの仕組み<基礎編>」を参照。</p>

①他商品データの履歴を使用

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
			●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
企画	直前に加工していた商品の表示を使用	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 5px;">体制不備</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-right: 5px;">ヒューマンエラー</div> <ul style="list-style-type: none"> 入力する原産地情報等のデータ変更を失念した ラベル作成担当者が現物と表示とを確認する体制がなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 社内でラベル発行指示書を発行し、指示書に基づきラベルを作成 ラベル作成担当者は指示書と表示ラベルとを照合し確認するルールを導入 リパックする前の肉塊の部位や産地等の情報が書かれた用紙（カンバン）を作成、リパックしてラベル表示が当該製品に貼付されるまで、モノ（製品）と情報（カンバン）が切り離されないような取組みを導入 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> リパックや小分け等の簡易作業であっても、商品が異なることから、表示も異なるとの意識付けも重要です。 </div>
仕入れ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> リパックした際、直前に加工していた豚肉の情報を修正しないままプライ斯拉ベルを作成・貼付したため、原産地が異なる商品が販売された。 </div>			
加工・調整				
ラベル作成・表示			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> カンバン方式イメージ  </div>	
販売・出荷				

②他商品ラベルとの混同

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
			●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>他の商品のラベルを使用</p> <p>2つの異なる産地の同部位の牛肉を用いて味付け加工を行い、それぞれに対応するラベルを付して冷蔵保存した。 その後、陳列のための包装を行う際に、一方の産地・個体識別番号で作成したプライ斯拉ベルを全ての商品に貼付した。</p>	<p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <ul style="list-style-type: none"> 商品（ロット）が異なることを確認しなかった 異なる商品（ロット）を区別するための仕組みが不十分だった 	<ul style="list-style-type: none"> ラベル作成指示書の作成と共に、口頭でも情報を伝達 ロットが異なることの視認性を改善（マジックで大きく表示等） 	<p>異なる製品を明確に区別して取扱えるようにしましょう。</p> <p>ヒント</p> <p>異なる製品が混入しないよう、異なる色の容器や目印を使う等、区別して管理することで、「異常検知力」も高まります。「異常検知力」については、「第1部 ヒューマンエラーの仕組み〈基礎編〉」を参照。</p>

①確認工程をパス

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
		●	●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>【誤った原産国名を表示して販売】</p> <p>鶏肉の入庫担当者が、管理システムへ誤った原産国を入力した。</p> <p>ラベル発行後に、外箱の表示との確認とともに、他者によるダブルチェックを行うルールが定められていたが、それらの確認を怠った。</p>	<p>【仕入れ】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <p>情報入力に作業ミスがあった</p> <p>【ラベル作成・表示】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <p>社内ルール（ダブルチェック）を実施しなかった</p>	<p>改善例</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示に関する責任の所在を明確化し、表示ミスの防止に向けたチェック体制を導入 社内ルールに関する再教育、周知徹底 	<p>日常管理のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 手元で指差呼称をする等、現物と表示とを突き合わせましょう。 表示のデータ入力管理のルールが日頃から守られているのかを確認しましょう。 <p>ヒント</p> <p>担当者が、ラベル作成機等への入力を誤った際に、思い込みにより、誤りに気づけない場合もあります。入力した者とは別の者が確認する仕組みにしましょう。表示データ入力作業が繁雑ではないか、手順を見直しましょう。社内ルールは定期的に教育を行い、周知徹底を行いましょう。</p>

①材料・商品の混同

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
			●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>↓</p> <p>仕入れ</p> <p>↓</p> <p>加工・調整</p> <p>↓</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>↓</p> <p>販売・出荷</p> <p>↓</p>	<p>分別管理不徹底による誤表示品を販売</p> <p>同一商品で個体識別番号が異なる牛肉を同一場所に保管していたため、それらの境目が不明確になり、いくつかのパックに誤った原産地及び個体識別番号を表示した。</p>	<p>【加工・調整】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <p>食肉保管に関して、整理・整頓の状態が悪かった</p> <p>【ラベル作成・表示】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <p>異なるロットを区別するための仕組みが不十分だった</p>	<p>食肉の保管倉庫を整理・整頓、区画化し、定位置管理を実施</p> <p>ロットが異なることの視認性を改善（マジックで大きく表示等）</p>	<p>・整理整頓は、仕入れた原材料の管理にも言えることですので、保管状況を上司が定期的に確認するのもよいでしょう。</p> <p>・異なるロットを明確に区別して取扱えるようにしましょう。</p>

②伝達ミス

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
		●	●	

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>口頭による伝達ミスで誤表示品を販売</p> <p>一時的に大量の受注が発生。産地の異なる牛肉を大量に仕入れたことにより、加工作業が煩雑になり、直前に加工を行った国産原料肉の原産地・個体識別番号と同じであると思い込み、ラベル作成者に口頭で伝達した。</p>	<p>【仕入れ】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本来の処理能力を超える受注をした • 多忙時のフォロー体制が無かった <p>【加工・調整】</p> <p>体制不備 ヒューマンエラー</p> <ul style="list-style-type: none"> • 異なるロットを区別するための仕組みが不十分だった • 産地情報等の社内共有が曖昧だった • 口頭により情報伝達を行った 	<ul style="list-style-type: none"> • 当該部署の処理能力を踏まえて受注する • 多忙時は、他の従業員でも対応できるように、食品表示に関する教育を行い、対応可能なメンバーを養成 • ロットが異なることの視認性を改善（マジックで大きく表示等等） • 社内伝票による仕入れ→カット→ラベル作成までの産地等の情報の伝達、相互チェック 	<ul style="list-style-type: none"> • 食品表示違反は会社の信用・信頼を失う契機となる恐れがありますので、組織として対応するようにしましょう。 • 異なるロットを明確に区別して取扱えるようにしましょう。 • 各工程担当者同士のコミュニケーションや情報共有を積極的に行いましょう。

③その他

企画	準備		製造	出荷
	包材	原材料		
				●

工程	表示ミス事例	ミスの要点	改善例	日常管理のポイント
<p>企画</p> <p>仕入れ</p> <p>加工・調整</p> <p>ラベル作成・表示</p> <p>販売・出荷</p>	<p>名称、原産地等を表示せずに販売</p> <p>冷凍ブランド黒豚の通信販売において、商品発送の委託先が商品説明書の同梱を失念して発送したため、表示せずに販売された状況となった。</p> <p>→食品表示法に基づき、豚肉の情報（名称、原産地）を貼付すべきだった。</p>	<p>ヒューマンエラー 制度理解不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信販売のルールを理解していなかった 同梱すべき文書（商品説明書）を失念した 	<ul style="list-style-type: none"> 作業手順書を作成し、同梱物チェック表を作成 	<p>セルフチェックの場合は、チェックしたことの記録（チェック表）を残すようにし、うっかりミスを予防しましょう。</p>

コラム：通信販売の表示義務

✓ 生鮮食品を生産した場所で販売する場合は、一部の表示事項の表示は要しませんが、通信販売の場合は生産した場所での販売には当たらず、必要となる表示事項は表示義務となります。